

PRAEVIDENTIA DAILY (8月27日)

昨日までの世界：ドル高継続、コモディティ通貨も堅調

昨日は、米経済指標はまちまちで米2年債利回りも小反落したが、NYJ時間にドルが対主要通貨で上昇し、ドル高基調が継続する展開となった。特にポンド、ユーロなどの欧州通貨の軟調が目立ち、ユーロ/ドルは一時1.3165ドルと年初来安値の更新が続いている。他方、米株価の高値更新継続もあってカナダドル、豪ドルなどのコモディティ通貨のほか、トルコリラや南アランドなど新興国通貨も上昇した。但しNZドルは、NZ貿易赤字が-6.92億NZドルと予想以上に拡大したこともあって下落基調が続いた。

この間、ドル/円はアジア時間に一時104円割れとなったが、NY時間には米長期債利回りの持ち直しと共に再び104円台を回復、結局104円丁度近辺での横ばい圏内の動きとなった。

米経済指標では、振れの大きい耐久財受注は総合が+22.6%、コア資本財出荷（GDP算出に使用）が+1.5%と市場予想を上回った一方で除く輸送用機器が-0.8%、コア資本財受注（設備投資の先行指標）が-0.5%と市場予想を下回り、その他S&Pケースシラー住宅価格は前年比+8.1%と予想比伸び率が低く、鈍化基調が強まった一方、カンファレンスボード消費者信頼感92.4と既発表のミシガン大分の悪化とは逆に前月および市場予想を上回る結果となった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	-0.01	-0.01	+0.00	+0.02	+0.01	-0.01	+0.1	-0.6	+0.5	-0.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.2	+0.02	+0.02	-0.01	-0.02	-0.01	+0.01	+1.0	+0.1	-0.1	-0.07
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.16	+0.15	-0.01	+0.03	+0.04	+0.01	+0.7	+0.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	-0.04	-0.04	-0.01	-0.10	-0.08	+0.01	+0.1	-1.0	+0.6	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.1	-0.01	-0.02	-0.01	-0.08	-0.07	+0.01	+0.1	-1.0	+0.6	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.3	-0.02	-0.01	+0.01	+0.01	+0.01	+0.00	+0.1	+0.5	+0.6	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ドル高の調整リスク

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

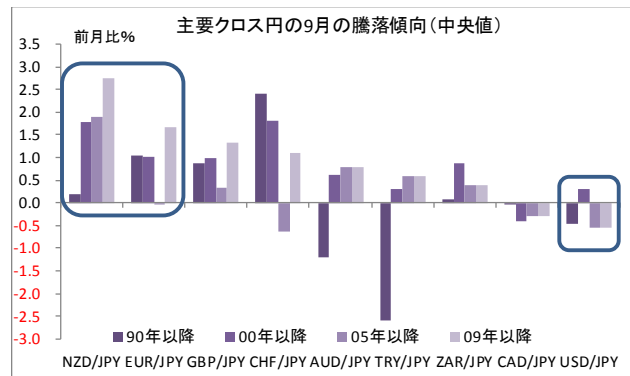
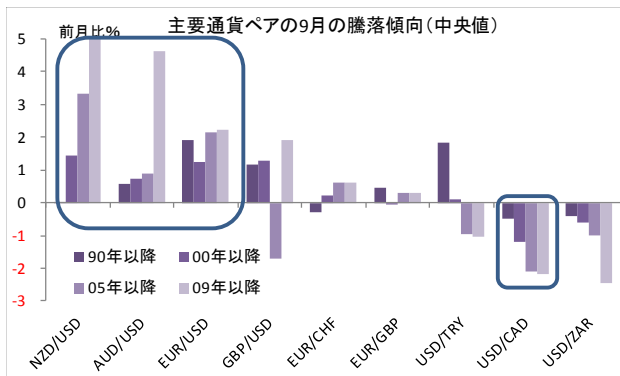
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪2Q建設工事完工	10:30	+0.3%	-0.3%	
トルコ中銀金融政策決定・レポレート	20:00	8.25%	8.25%	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

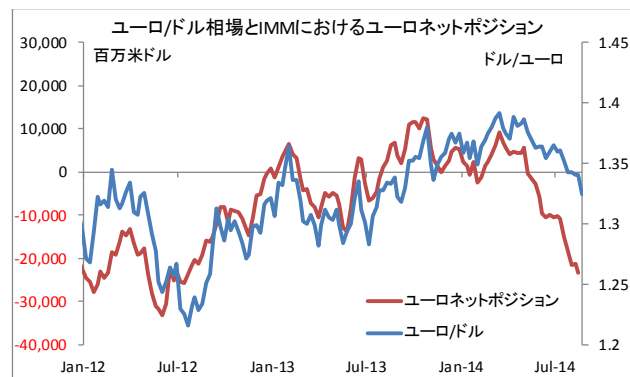
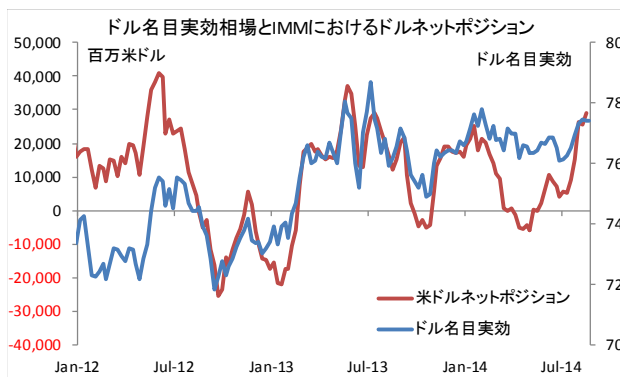
本日は非常に材料が少なく、主要通貨の方向性についてイメージを持ちにくい。但し引き続き、先週のYellen議長発言に対する市場のドル買いでの反応は行き過ぎと考えており、最近ドル/円相場との連動性が強まっている米2年債利回りも上昇が一服していることもあって、ドル/円はどちらかというと103円台への反落リスクが高いとみられる。

こうした中で、9月の季節的なパターンについて先取りしておくとして、NZドルとユーロが対ドル、対円で上昇し易い傾向、および米ドルが対主要通貨（NZドル、豪ドル、ユーロ、カナダドル、円）で下落する傾向がある（下図を参照）。これは7月以降の米ドル高、NZドル安、ユーロ安傾向とは逆で、調整の可能性を示唆す

るものだ。



この調整圧力について、IMM ポジションの面から偏ったポジションが造成されている可能性がある通貨を探してみると、米ドルロング（290 億ドル、その他通貨の買い持ちの裏側として認識）およびユーロショート（233 億ドル）が挙げられる（下図を参照）。当社はユーロやNZ ドルは下落トレンドが9 月も継続するとみているが、米ドル全般のロングポジションが長期的にみても大規模になっていること、同時に最近の米利上げ早期化期待はやや行き過ぎと考えていることも合わせると、米ドル高の調整からくるNZ ドルやユーロの一時的反発リスクには注意する必要があるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641